

# 「カクテルサンド」を開発

中央砕石  
生コン工場が一本砂で使用

中央碎石(大阪府高槻市  
山本和成社長)はこのほど  
生コンクリート用細骨材と  
して一本砂で使用(一本使  
い)できる温式碎砂「カク  
テルサンド(CS)」を開発  
した。また四月二日には  
茨木市にある生コン製造業  
者・ワールド(大阪府茨木  
市、藤中昌則社長)におい

て「碎砂一本使い生コン」で「学会」を開催。実際に細骨材にCSを使用した生コンを製造し、各種試験を通して六十分後のフレッシュ性状やポンプ圧送性が良好であることを確認した。

二者の約四十人が参加したが、参加者からは「CSを使い製造したコンクリートの性状は天然砂を使用したものと同等であり、何の問題もなく使用できる良い品質の生コンだった」との声が多數寄せられた。

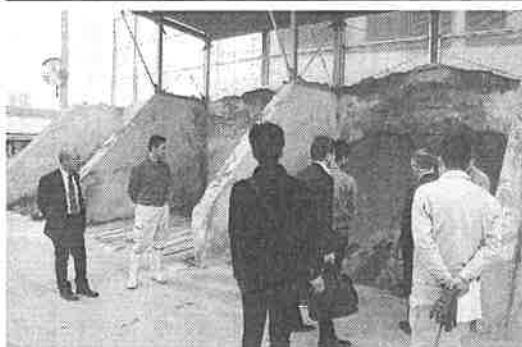
用しているところが大半を占めるが、近年は天然砂と碎砂を混用するところが増加の一途を辿る。そのような中、中央砕石品質を安定化できる細骨材の確保が課題になりつつある。石は約一年前にワールド

きる碎砂を製造するため  
着目したのが生コンの流  
性やブリーディング等に  
影響する微粒分量だったと  
う。温式碎砂に碎石粉を  
えていくことが良いと判  
し、中央碎石が生産して  
る粒形改善と分級を二回行  
い品質の向上と低微粒分

水率一・五%以下③安定  
 一〇〇%以下④粗粒分  
 八〇〇%・一五(5)微粒分  
 五・〇%三一・〇%<sup>6</sup>粒  
 判定実積率五五%以上  
 なっている。CSは製品  
 許を申請中だ。  
 また、ワールド社はC  
 を使用した生コンでJ-I

吸水量特性と直径CSの生産量は現在最大月産約八千トントで、これが、CSの生産設備能力が最大八千トント程度であることを要因。その一方で、CSの生産設備能力は月産二万台あるため、同社では今年度を自途にWS生産設備

うの仕事は将来的に減らさなければいけない。そこで、新しい事業開拓のための新たな組織構造をつくることによって、生産性を高め、効率化を図ることで、人件費の削減を実現する。これが業界の一つの換点になればいいと思ふ。」と述べた。



CSのストックヤードを見学する参加者  
式碎砂「ウエットサンディング」(WS)(JT-S適合品)に乾式碎砂製造時に発生する碎石粉を回収・分級を行つてJIS-A5041(コンクリート砕石粉)の規格に適合させた碎石粉「中央

社から「一本使いで使用でき、安定した品質の砕砂の開発をお願いしたい」との要請を受け、同社とともに生コンのフレッシュ性状やポンプ圧送性能などを考慮した碎砂の開発に着手しました。

「フィラード」を添加し製造することとした。その後、タキシードの種実験によって微粒分量の最適なパーセンテージを導きだししてこのほど製品化を図り、一月から販売を開始した。

・A53308(レディー)  
クストコンクリート)の  
証を取得したほか、竹中  
務店とともに高強度コン  
リートの大臣認定も取得  
しているため、CSの安定  
給が絶対条件となつて  
る。さらに見学会以降に

ミミ 認証士 クエ シ供もい

見学会で性能証明 増強を実施し、CSの生量を増やす考えだ。

山本社長は「CSの開発により、生コン用細骨材として碎砂を一本使いで環境が確立できた。碎石